

古スルシルヴァンにおける、
IL NARRATIV と IL PERFECT の使用に関する一考察
－LUZI GABRIEL の新約聖書を例に－

2021/05/16

日本ロマンス語学会 第59回大会
東京外国語大学 博士後期課程 清宮貴雅

発表の流れ

- 研究目的
- ロマンズ語におけるスルシルヴァンの位置
- スルシルヴァンにおける過去時制
- コーパス
- リサーチクエスション
- 分析
- まとめ
- 参考文献

研究目的

17世紀のスルシルヴァンにおける2つの過去時制,
直説法物語過去と直説法完了の関係性を明らかにする。



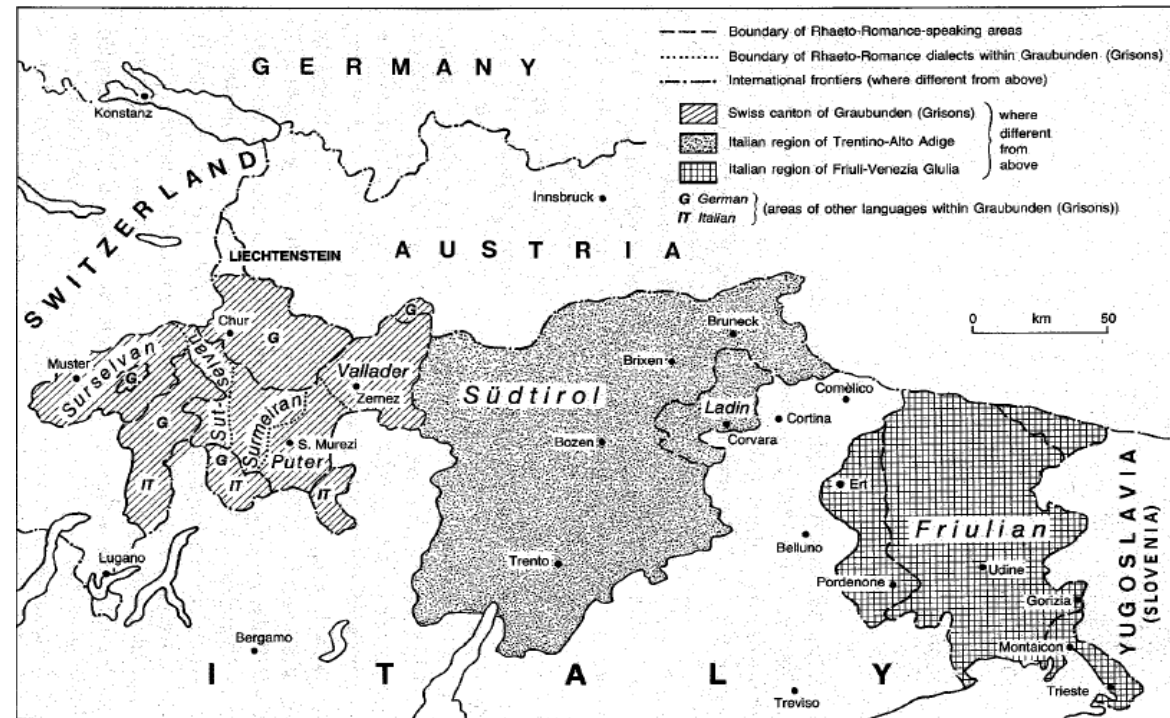
ロマンス語における スルシルヴァンの位置



レト・ロマンンス語

■ G.I. Ascoli (1873) が3つの言語群を1つの言語グループに分類

- ロマンシュ語（図内左）
- ラディン語（図内中央）
- フリウリ語（図内右）



Haiman & Beninca (1992 : 2)

■ ドイツ語圏, イタリア語圏, スラヴ語圏（フリウリのみ）と隣接している

ロマンシュ語

- 1938年 スイスの国語に認定
- 話者数 (2000年の国勢調査) 60,561人 (Gross 2004:31)
- 伝統的に5つの地域語圏に分かれている

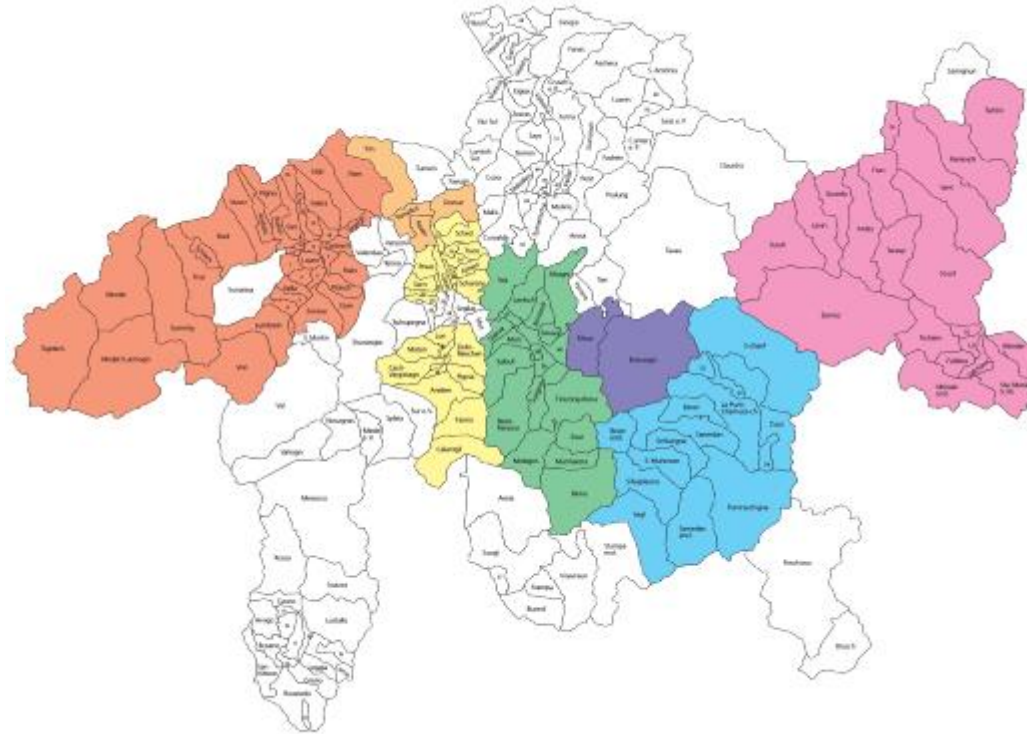
スルシルヴァン

ストシルヴァン

スルミラン

ピュテール

ヴァラーデル



スルシルヴァン

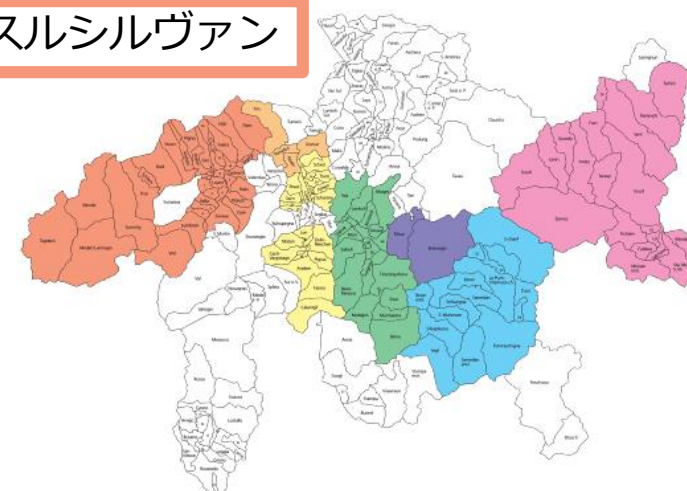
- スルセルヴァ地域のロマンシュ語
- 書記法や規範文法の制定以前は、プロテスタント地域とカトリック地域で異なる文字体系を保持

例) Caviezel (1993: 99, 104) /ɬ/ (硬口蓋側面接近音)

プロテスタント : lg

カトリック : gl

- 現代語 : Cahannes (1924, 1927)の綴りや文法（カトリック体系）が基盤



Gross (2004: 27)

古スルシルヴァン

- 初期のスルシルヴァンの文献で使用されている言語
- スルシルヴァンでの最初の文献（キリスト教教義, 聖書）
 - プロテスタント
 - Steffan Gabriel (1611) *Ilg vêr sulaz da pievel giuvan*
 - Luzi Gabriel (1648) *Ilg Niev Testament da Niess Segner Jesu Christ* など
 - カトリック
 - Gion Antoni Calvenzano (1615) *In court muossament ad intruvidament*
 - Zacharias da Salo (1665) *Spieghel de devotion diviis enten siis partz* など



スルシルヴァン における過去時制

現代スルシルヴァンにおける過去時制

■ 3つの直説法の過去時制が存在

1. Il perfect – 直説法完了 (≡仏語 le passé composé)

(1) Jeu **hai legiu** in cudish. (Spescha 1989: 610)

「私は本を読んだ。」

2. Igl imperfect – 直説法未完了 (≡仏語 l'imparfait)

(2) Ei **era** ina biala sera da stad. Il suleagl **mava** da rendiu. (*Ibid.*: 609)

「夏の美しい夜だった。太陽が沈んでいるところだった。」

3. Il plusquamperfect – 直説法大過去 (≡仏語 le plus que parfait)

(3) El **veva** gia **scret** sia brev, cura che sia mumma ei entrada. (*Ibid.*: 611)

「彼の母が入ってきたとき、彼はすでに手紙を書いていた。」

古スルシルヴァンにおける物語過去

- Il narrativ (< 羅. 直説法能動態完了) も使用していた。

*便宜上, 直説法物語過去と呼ぶ

- Spescha (1989: 409) *Grammatica sursilvana*

“El (= il narrativ) exprimeva sco il perfect in ’acziun vargada e cumplenida e corrispundeva al passà defini dil ladin, al passato remote dil talian ed al passé simple dil franzos.”

「物語過去は, 直接法完了のように過去における完了した行為を表していた。またこの時制は, ラディン語の直説法定過去, イタリア語の直説法遠過去, フランス語の直説法単純過去に該当する。」

- ただし, 物語過去の具体的な用法に関して記述なし

古スルシルヴァンにおける物語過去

- 物語過去に関するSpescha (1989)の文法書以外の記述
 - Conradi (1820: 70) *Praktische Deutsch-Romanische Grammatik*
直説法未完了の変種として1人称・3人称の単数複数形を記載
 - Gartner (1883: 136, 142 & 146) *Rätoromanische Grammatik*
様々な作品で使用されている物語過去の活用を羅列
 - Mourin (1964: 106-109) “Sursilvain et engadinois anciens et ladin dolomitique”
Luzi Gabriel (1648) における物語過去形の活用を解説
- 具体的な用法や使用に関して記述している文献は見られない
物語過去がどのように使用されていたのかを分析する必要がある

直説法現在と直説法物語過去の形態

■ 直説法完了

- *haver/esser* (古ス. *vêr/ esser*)の直説法現在 + 過去分詞

(4) Els **ein entrai** en casa, **han viù** igl affon cun Maria, sia mumma, [...]. (Niev Testament 1988, Matt. 2.11)

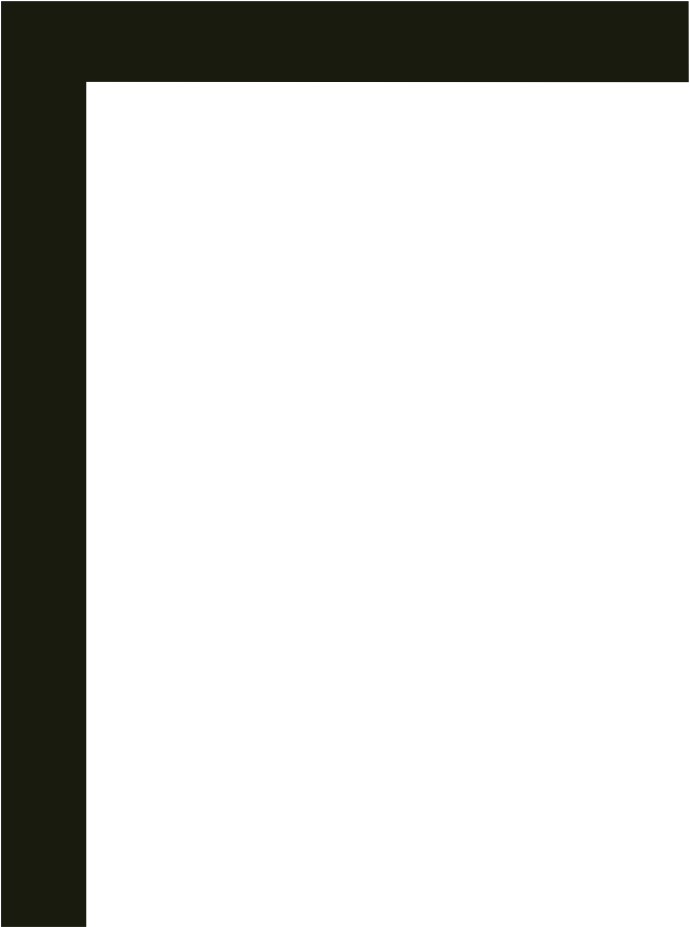
「そしてその家に**入って**、母マリヤとともにいる幼子**を見て**、[...]。」

■ 直説法物語過去

- 動詞の語幹+活用語尾

(5) A **manen** en la casa, ad **afflanen** ilg uffont cun Maria sia Mumma [...]. (ilg Nief Testament 1648, Matt. 2.11)

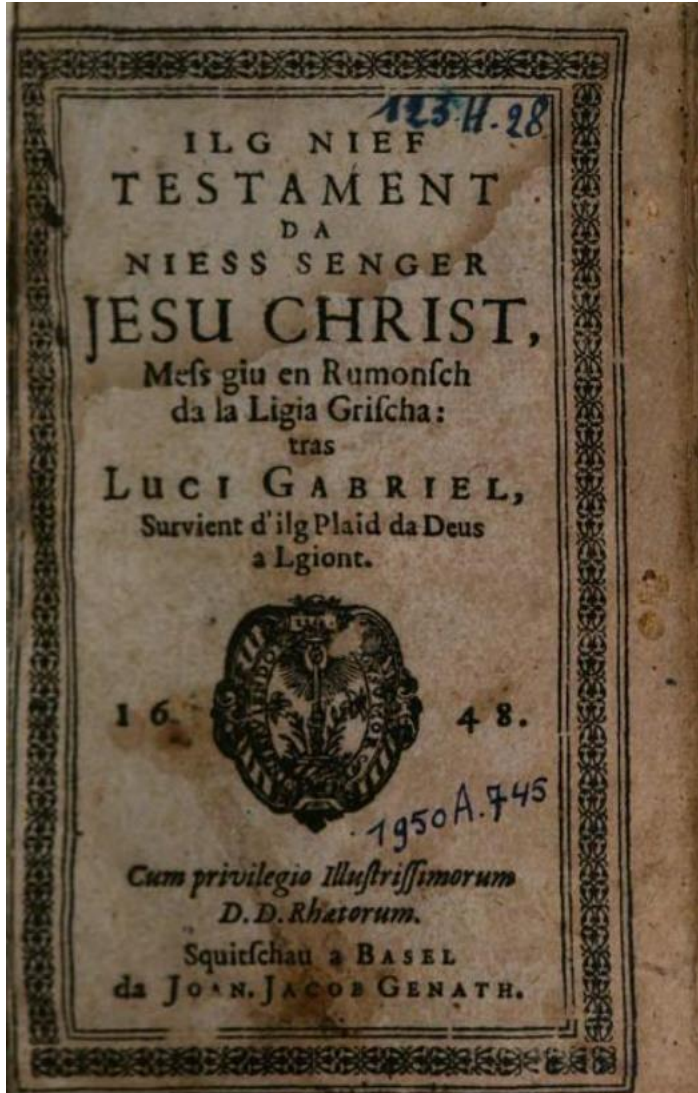
「そしてその家に**入って**、母マリヤとともにいる幼子**を見て**、[...]。」



コーパス



コーパス



- Luzi Gabriel (1648) *Ilg Nief Testament da Niess Senger Jesu Christ* から『マタイの福音書』
- 1869年までに9回改訂されている
- 本研究では初版を使用する
- コーパス規模：26,591語

Luzi Gabriel (1597-1663)

- Imboden 地域 Flims出身（図上）
- チューリッヒ大学で神学を学ぶ
- 父 Steffan Gabriel同様，神父となる
- 新約聖書は，Surselva地域 Ilanz（図下）で
神父をしていた時期に翻訳



https://de.wikipedia.org/wiki/Datei:Karte_Gemeinde_Flims_2016.png



https://als.wikipedia.org/wiki/Datei:Karte_Gemeinde_Ilanz_Glion_2014.png

Gabriel, L. (1648)に関して

■ Carisch (1855: 36)

» Zweierlei läßt sich an dieser Uebersetzung nicht verfennen, einerseits ernste Bemühung, den Sinn des Originals mit der gewissenhaftesten Treue wiederzugeben; anderseits es auf ganz populäre, auch dem Ungebildeten verständliche Weise zu thun. «

「この翻訳に関して、次の2つのことを否定することはできない。1つは、オリジナルの意味を最も忠実に再現するための真剣な取り組み。もう1つは、教育を受けていない人にも理解できる、非常に庶民的な方法での翻訳である。」

Gabriel, L. (1648)に関して

■ Gabriel, L. (1648: prefatiun 12)

“Antroquan ussa veits vus ghieu questa scüsa, ca vus antalgias buc la Bibla, ner ilg Testament en Tudesch : ad enten viess linguaig seig naginna Bibla, a nagin Testament. Quei ha muvantau mei da metter giu ilg Nief Testament en Rumontsch. Ussa veits vus ilg plaid da Deus en viess linguaig...”

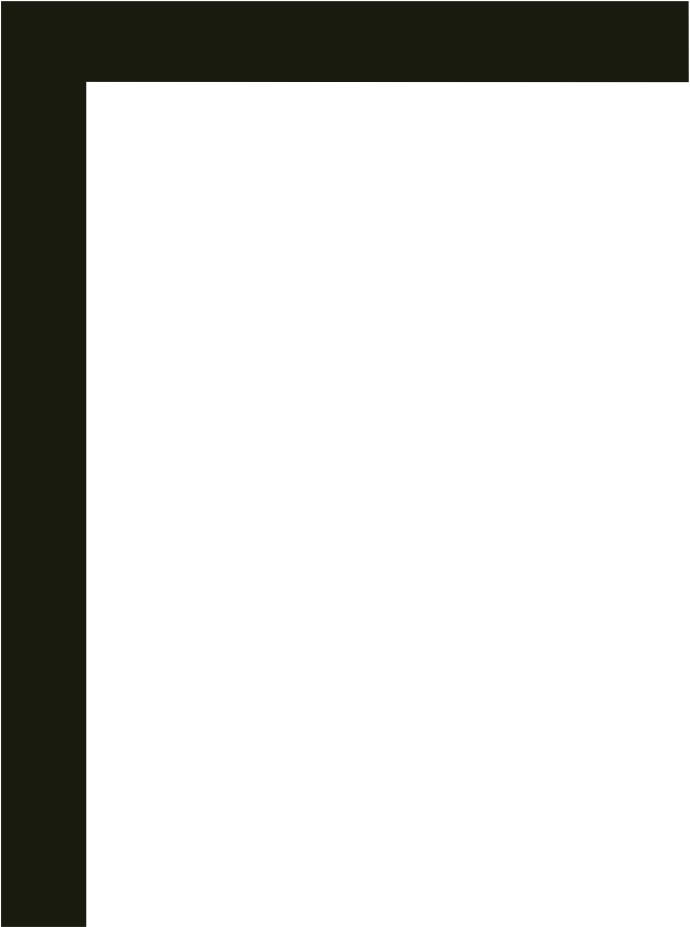
「あなた方は、今まで、ドイツ語で聖書を理解することができず、またあなた方の言語で聖書が存在していなかったという言い訳があった。このことが、ロマンシュ語で新約聖書を書くよう私をかき立てた。今あなた方は、あなた方の言語で神の言葉を手にしている...。」

→ スルシルヴァンの地域のロマンシュ語話者が理解できるよう、
彼らの言葉に合わせて書こうと努めたことがわかる。

Gabriel, L. (1648)をコーパスとして使用する

リサーチクエスチョン

「直説法完了と直説法物語過去という2つの過去時制が、まったく同じように使用されていたのか。もし異なる場合、どの様に使い分けられていたのか。」を17世紀に書かれたスルシルヴァンの初期の文献, Gabriel, L. (1648)を用いて明らかにする。



分析



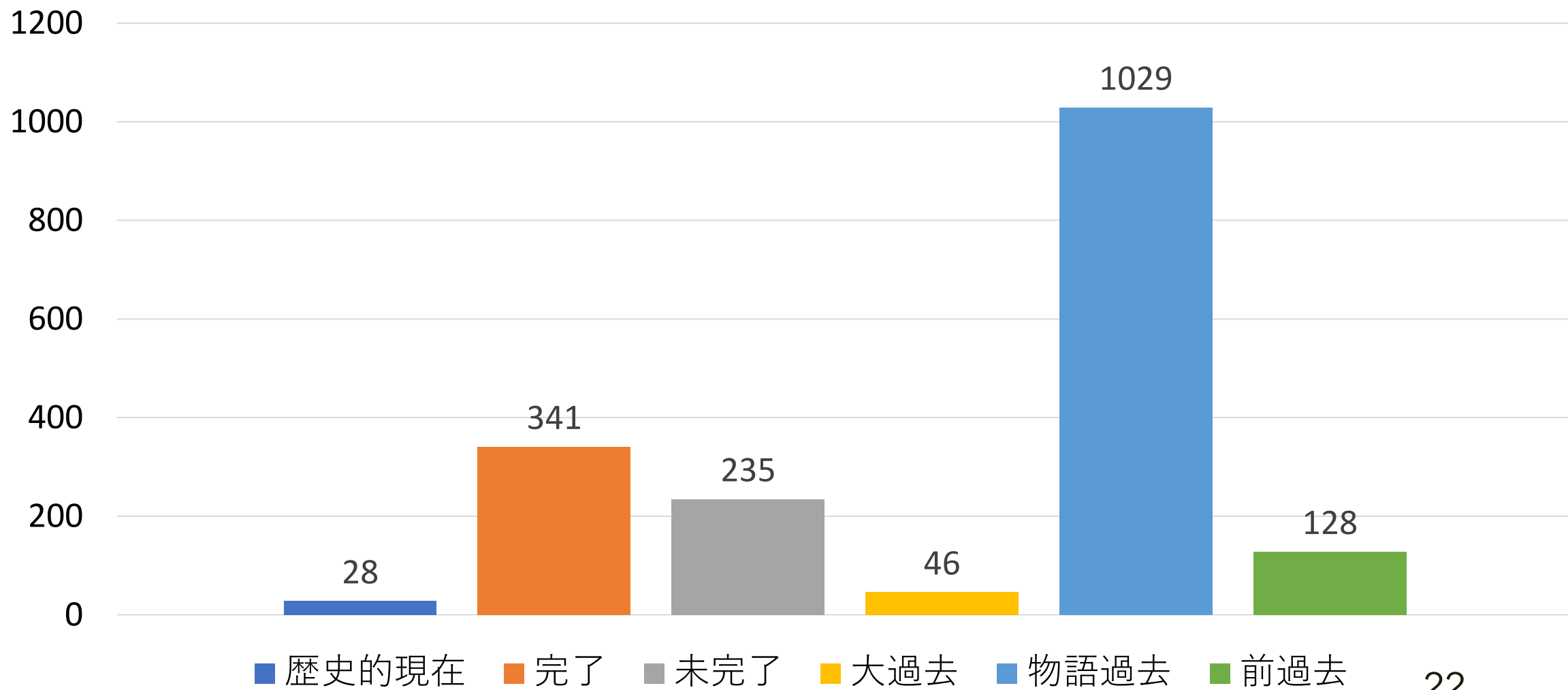
分析

■ 分析方法

- ① 『マタイの福音書』内の全ての定動詞を，法・時制ごとに分類した
- ② 法・時制ごと（助動詞を伴う時制は，活用されている助動詞）の生起数を数えた
完了，大過去，前過去，未来，未来完了，受動態
- ③ 直説法の過去時制を分析の対象とした
- ④ 直説法物語過去，直説法完了がどのような文脈で使用されているかを調査した。
語り手（=地の文），登場人物の発話，例え話，預言

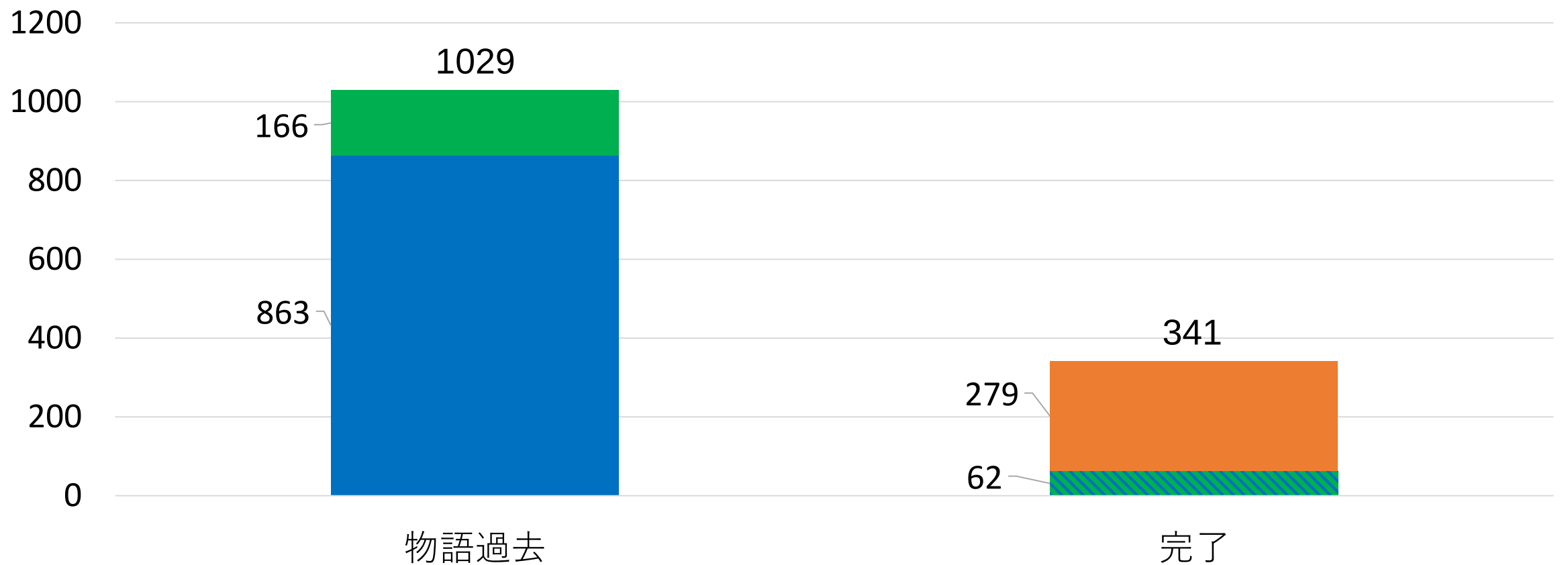
分析

グラフ1. Gabriel, L. (1648) の『マタイの福音書』における直説法の過去時制



分析

グラフ2. 直説法物語過去と直説法完了の使用場面



■ 登場人物による例え話・預言者の預言
■ 語り手

■ 登場人物の発話
■ 語り手+登場人物による例え話・預言者の預言

分析

■ 語り手における直説法物語過去の使用

(6) Lura ilg **manà** ilg Giavel ent ilg soing marcau, ad ilg **schentà** sin l'ala d'ilg teg d'ilg temple, a **schet** á lgi: (ilg Nief Testament 1648, Matt. 4.5.)

「すると悪魔はイエスを聖なる都に**連れていき**，神殿の頂に**立たせて**，**言った**。」

(7) A mire ün da biemal **vangit**; ad ilg **adurà**, a **schet**, Senger, scha ti vol, scha mi pos ti schubriar. (ilg Nief Testament 1648, Matt. 8.2.)

「すると見よ，一人のライ病に冒された者が**来て**，**ひれ伏して**，**言った**。『主よ御心なら，私を清くすることができます。』」

分析

■ 登場人物の発話における直説法完了の使用

(8) Parchei ca jou **sunt vangeus** par metter en scuvangianscha , ilg filg an cunter sieu bab, a la filgia ancunter sia mumma, a la brit ancunter sia sira. (il Niev Testament 1648, Matt. 10.35.)

「『なぜなら私は、その人を父に、その娘を母に、その嫁を姑に逆らわせるために**来た**からです。』」

(9) A jou ilg **hai manau** avont tes Juvnals, mo els ilg **han** bucca **pudieu** far sauns. (il Niev Testament 1648, Matt. 17.16.)

「『そして、私はその子を弟子たちのところへ**連れて行った**のですが、彼らはその子を治すことが**できませんでした**。』」

分析

- 語り手と登場人物の発話で、直説法完了と直説法物語過去が使い分けられている例

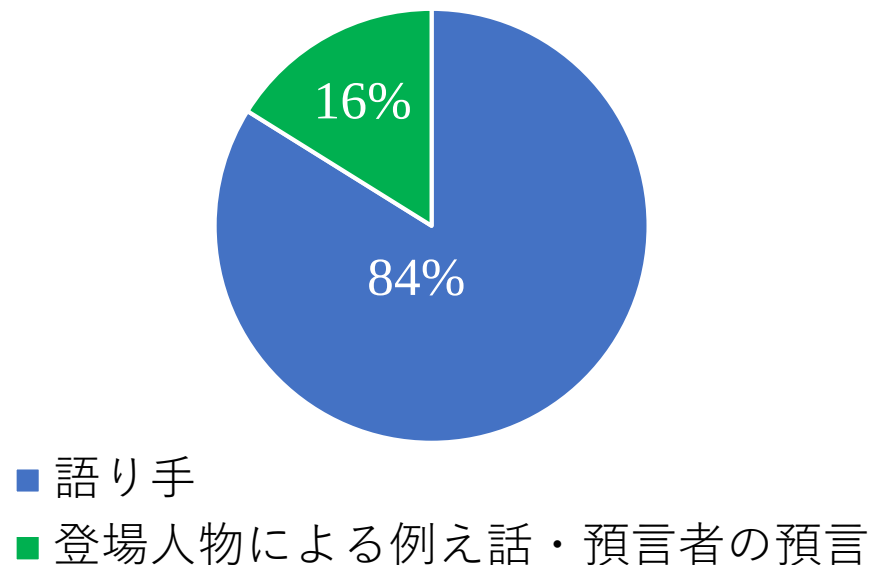
(10) Ad el figet rasposta, a schet ad els, Veits vus bucca ligeu, ca quel c' ha scaffieu ils carstiauns d'antschetta, ha faig ün maskel, ad ünna femna ? (il Niev Testament 1648, Matt. 19.4.)

「イエスは答えて言われた。『あなた方は読んだことがないのですか。創造主は人を、男と女に形造ったことを？』」

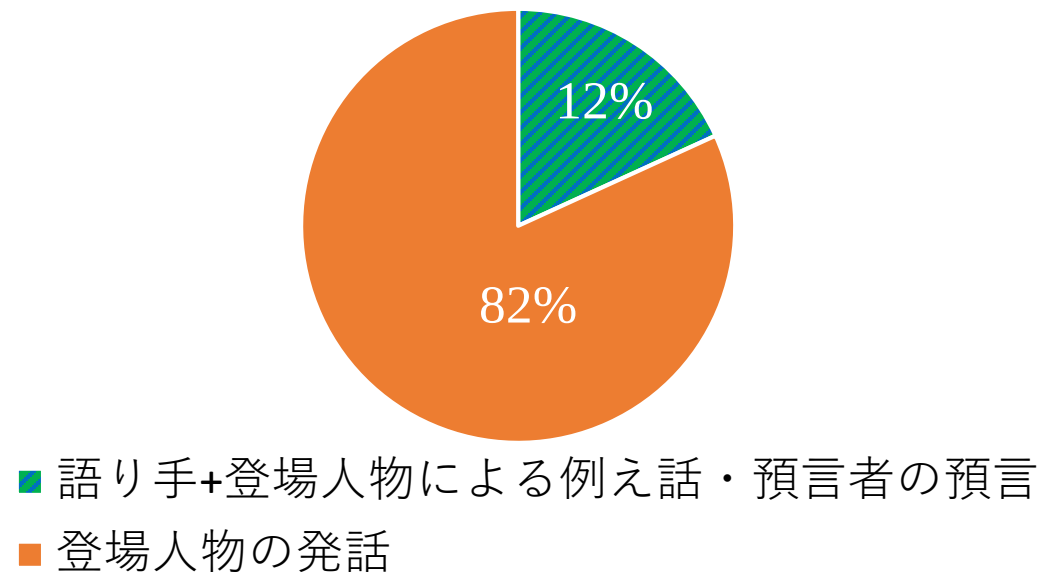
(11) A cur ils Juvnals vasenan quei, schi sa smarvilgianen els , a schenan, Co ei quei pumer da fics aschi nechiameng seccaus ? (il Niev Testament 1648, Matt. 21.20.)

「弟子たちはこれを見て、驚いて言った。『どうしてこのイチジクの木はこんなにすぐに枯れたのでしょうか？』」

分析 直説法物語過去（1029例）

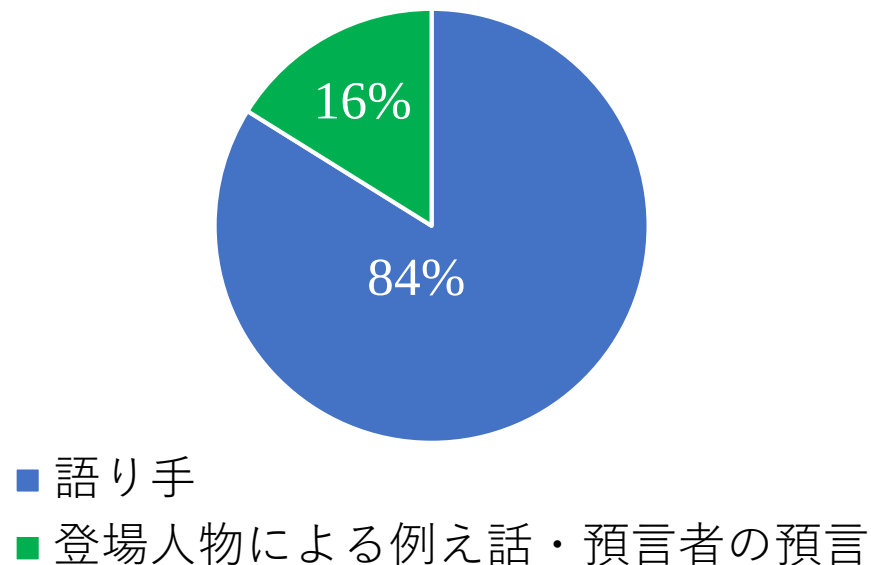


直説法完了（341例）

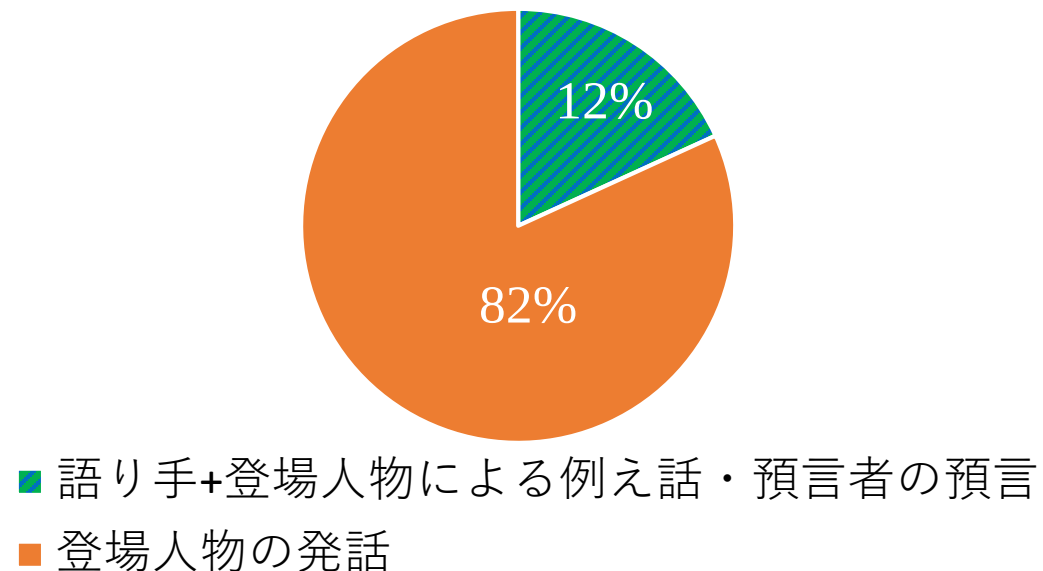


- 物語過去：語り手や，例え話における過去
主語3人称単数・複数でのみ使用（27章9節の，1人称単数での使用1例を除く）
- 完了：登場人物の発話
全ての人称で使用

分析 直説法物語過去（1029例）



直説法完了（341例）



■ Weinrich (1985) の『語りの時制』と『説明の時制』

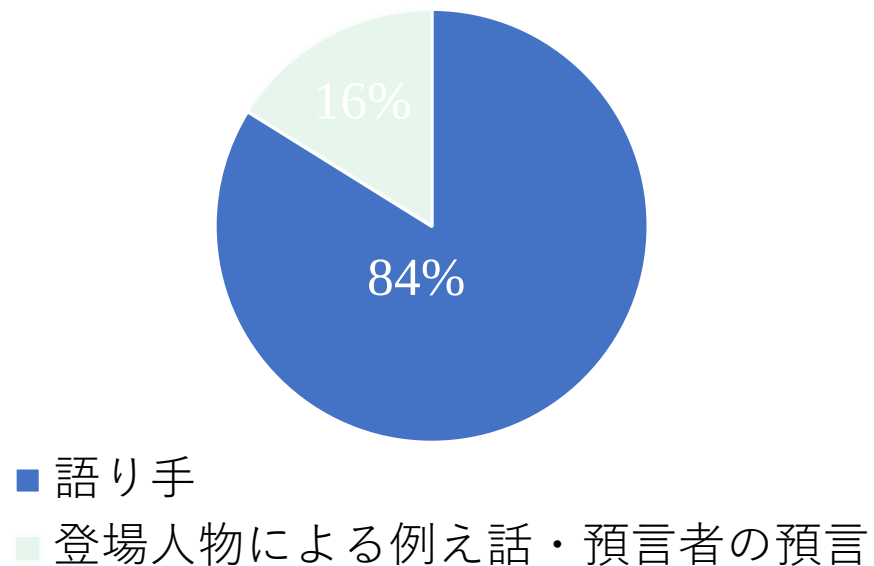
語りの時制：話者とは切り離された世界の出来事を述べる時制

仏語：大過去，前過去，半過去，**単純過去**，条件法現在，条件法過去

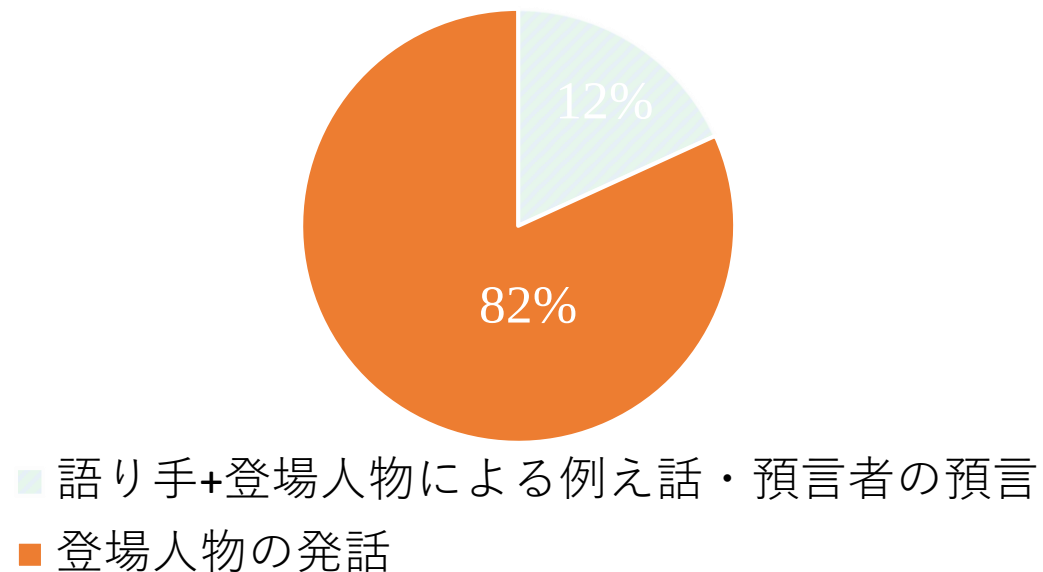
説明の時制：話者と同じ世界の出来事を述べる時制

仏語：**複合過去**，現在，単純未来，前未来

分析 直説法物語過去（1029例）



直説法完了（341例）



■ Weinrich (1985) の『語りの時制』と『説明の時制』

語りの時制：話者とは切り離された世界の出来事を述べる時制

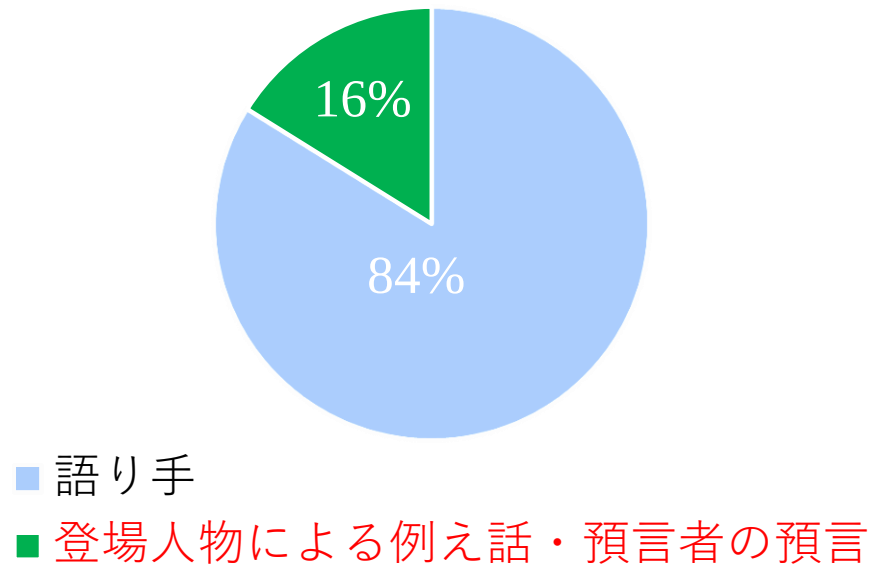
仏語：単純過去 ⇨ スルシルヴァン：物語過去

説明の時制：話者と同じ世界の出来事を述べる時制

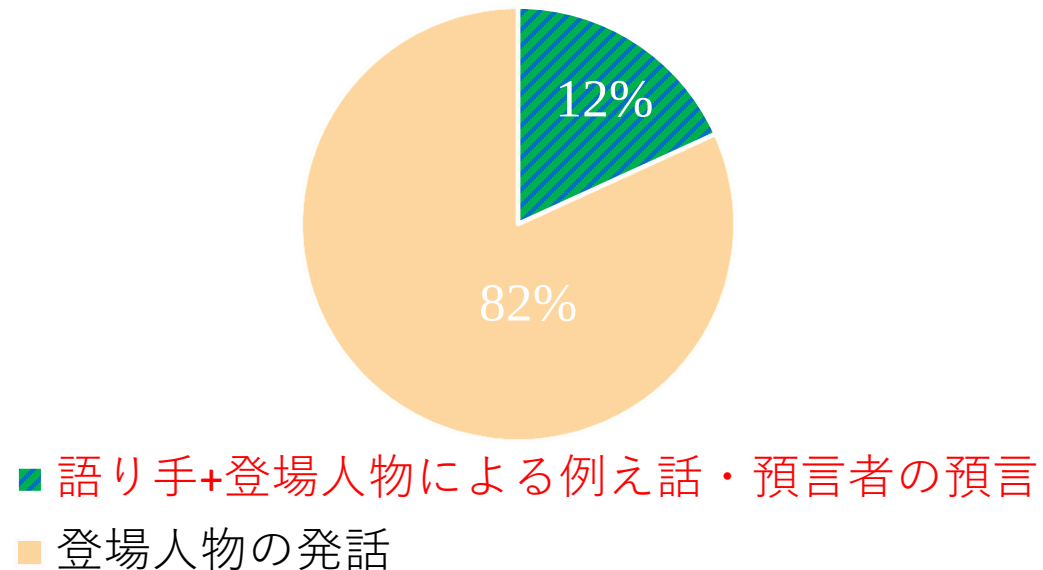
仏語：複合過去 ⇨ スルシルヴァン：完了

分析

直説法物語過去（1029例）



直説法完了（341例）



- 登場人物の発話での直説法物語過去（語りの時制）の使用（166/1029例）
- 語り手での直説法完了（説明の時制）の使用（62/341例）

分析

- 登場人物の発話で、直説法物語過去（語りの時制）が使用されている例

(12) Mo ‘lg **ei stau** tenter nus set frars, a cur ‘lg amprim vet prieu mulgêr, scha **more** ‘l. A damai ch’el veva nagin sem, scha **lasshà** ‘l sia dunna á sieu frar. (il Niev Testament 1648, Matt. 22.25.)

「『私たちの間に7人の兄弟が**いた**。長男は結婚したが、死んでしまいました。子供が一人もいなかったなので、彼はその妻を弟に**残しました**。』」

直説法完了：話し手と直接関係のある過去の事実（tenter nus = 私たちの間に）

直説法物語過去：話し手とは別の過去の出来事

分析

- イエスの発話で、直説法物語過去（語りの時制）が使用される例

(13) A la plievgia **ei curdada giu**, ad ils ruviers **ean vangi**, ad ils suffels **han sufflau**, a dau ancunter quella casa, ad ell' **ei curdada**, a sia ruina **fò** gronda. / A cur Jesus vet vanschew or quels plaids, scha **sa stramantà** ilg pievel da sia doctrina. (il Niev Testament 1648, Matt. 7.27-28.)

雨が**降り**，洪水が**押し寄せ**，風が**吹き**その家を打ち付け，その家は**倒れた**。その崩壊はひど**かった**。
イエスがこれらのことばを語り終えると，群衆はその教えに**驚いた**。

7章27節まで：イエスによる発話 – **直説法完了**

7章28節から：語り手による地の文 – **直説法物語過去**

28節からの『語り』への移行をスムーズにしている

分析

- 語り手の文において、直説法完了（説明の時制）が使用されている例①

(14) A Jacob **ha generau** ilg Joseph, ilg marieu da Maria: da la quala **ei nascheus** Jesus, ca ven numnaus CHRISTUS. (il Niev Testament 1648, Matt. 1.16.)

ヤコブは、マリアの夫であるヨゼフを**もうけた**。その女性から、キリストという名のイエスが**生まれた**。

(15) Simon da Cana, a Judas Iscarioth, ilg qual ilg **ha er antardieu**. (il Niev Testament 1648, Matt. 10.4.)

熱心党员シモンと、イエスを**裏切った**イスカリオテ・ユダである。

「説明の時制」：物語の冒頭における登場人物や出来事の紹介や説明で使用可能

分析

- 語り手の文において、直説法完了（説明の時制）が使用されている例②

(16a) Mo cur Jesus vet sa veult anturn, a mirau sin ella, scha schet el, Hagias bunna fidonza filgia, tia cardienscha t' ha faig sauna. A la dunna **ei** da quell'hur'anvi **vangida sauna**. (9章22節)

イエスは振り向き彼女を見ると言った「娘よ、信じなさい、あなたの信教があなたを治したのです。」すると女性はその時から**健康になった**。

(16b) Lura figet Jesus rasposta, a schet ad ella, O dunna, gronda ei tia cardienscha, d'aventig á chi sco ti vol. A sin quell'hura **vangit** sia filgia **sauna**. (15章28節)

イエスは答えて彼女に言った。「あなたの信教は大したものだ、あなたの思い通りになるだろう。」するとその時彼女の娘は**健康になった**。

分析

- 語り手の文において、直説法完了（説明の時制）が使用されている例②

(16a) イエスの発話が終わった時には、女性は健康な状態になっていた（直説法完了）

過去時制というよりは、現在完了的なニュアンス

女性の状態を説明している

(16b) イエスの発話後に、女性が健康になった（直説法物語過去）

「健康になった」という状態変化が、過去の一連の出来事の一つとして捉えられている

分析

- 語り手の文において、直説法完了（説明の時制）が使用されている例③

(17a) ünn' outra sumelgia **ha'l mess** avont ad els, ad **ha gig**, Ilg Raginavel da tschiel ei sumlgionts ad ün carstiaun ca semnà bien sem en sieu êr. (13章24節)

イエスは他の例え話を**提示して**、**言った**。「天の御国は、畑に良い種を蒔いた者と似ている。」

(17b) ünn' outra sumelgia **mettet** el avont ad els, a **schet**, Ilg Raginavel da tschiel ei sumlgionts ad ün granitsch d' sinap, ilg quel ün carstiaun parnet, a semnà en sieu êr. (13章31節)

イエスは他の例え話を**提示して**、**言った**。「天の御国は、人間が取り、畑に蒔いたからし種と似ている。」

分析

■ 13章の流れ

■ 現在 ■ 未完了 ■ 完了 ■ 物語過去 ■ 前過去 ■ 未来

「種を蒔く人」のたとえ

たとえを用いて話す理由

「種を蒔く人」のたとえの説明

「毒麦」のたとえ

「からし種」と「パン種」のたとえ

たとえを用いて語ること

「毒麦」のたとえの説明

「天の国」のたとえ

天の国のことを学んだ学者

故郷の人びとの不信仰

40	la	sumelga	d	lig	Semmoder	24 D	lig	zerdim.	31 D	lig	sem	sinap.	33 D	lig	lavort.	44 D	lig	scad.	45 Da	la	perla.	47 Da	la	reit.	53	Christ	ven	bucca	prou	si	da	quels	da	Nazareth.		
2 A	car	Jesus	th	iget	gi	ius	or	d casa,	icha	schet	el	iper	la	mar.																						
7 Ad	el	th	raporta,	isat	ad	els,	Parchel	ch'el	a	vay	der	dou	graza	da	aver	lis	secrets	d'lig	Ragnavel	da	tschel	mo	ad	els	preu	el	bucca	dou	el.							
4 Ent	lig	semmer	sard	inna	part	sem	iper	la	viva		ad	lis	utcheis	angien	a	maginer	si	quel.																		
5 Ad	inna	part	sard	en	funds	croppu.	nu	ch'el	vays	bucca	beas	tratsch	ad	el	isat	ladnamer	parquel	ch'el		vays	buc	ault	tratsch.													
6 Mo	car	lig	Soleig	th	lavus,	icha	schet	el	a	duel	ch'el	el	vays	bucca	magich.	icha	isat	l																		
7 Ad	inna	part	sard	reuter	las	spinas	a	las	spinas	schet	ad	lig	stanchur	anen.																						
8 Ad	inna	part	sard	en	bien	tratsch,	a	part	frig-	tal	grantsch	tschient,	tal	tsienta,	tal	trenta.																				
9 Chi	th	oreligas	dad	udr,	schet																															
10 A	car	lis	juvals	konan		vi	tiers,	icha	schet	el	a	ligi,	Parchel	stas	en	els	tras	sumelga?																		
11 Mo	a	th	raporta,	isat	ad	els,	Parchel	ch'el	a	vay	der	dou	graza	da	aver	lis	secrets	d'lig	Ragnavel	da	tschel	mo	ad	els	preu	el	bucca	dou	el.							
12 Parchel	a	quel	th	vays	a	vanger	dou,	ad	el	vay	der	ver	cuplino	mo	da	quel	th	buc,	d'lig	er	quel	ch'el	tschel	mo	ad	els	preu	el	bucca	dou	el.					
13 Par	quel	plaid	ou	cun	els	tras	sumelga	parchel	ca	vazent	an	els	buc,	ad	udrit	subis	els	buc,	ad	udr,	a	vays	buc	ad	antallir	:	a	vazent	an	vay	der	a	longit	buc	ad	ancanucher.
14 Ad	el	en	cuplino	enten	els	la	Propheta	dad	Esais,	la	quala	ti	Cun	voyr	udida	angit	vay	a	lig	buc	ad	antallir	:	a	vazent	an	vay	der	a	longit	buc	ad	ancanucher.			
15 Parchel	ch'el	lig	cor	da	quest	pievel	el	vayr	gros,	a	cun	las	oreligas	han	els	udou	gret	a	lur	angit	han	els	dous,	par	ch'el	els	vays	buc	cun	lur	angit	a	longit	buc	ad	ancanucher.
16 Mo	beas	an	voss	angit,	parchel	ch'el	els	vays	a	vossas	oreligas,	parchel	ch'ellas	subis																						
17 Parchel	piliger	jou	an	isat	is	Bears	Prophets,	a	gits	han	grau	da	ver	quel	ca	vay	isat	ad	han	bucca	vay	a	dad	udr	quel	ca	vay	isat	ad	han	buc	udou.				
18	da	vay	la	sumelga	d'lig	Semmoder.																														
17a	lig	Plaid	d'lig	Ragnavel	ad	schet	bucca	quel,	schet	ad	lig	Nausch,	a	isat	dovend	quel	ch'el	sem	en	seu	cor,	quel	ch'el	sem	en	seu	cor,	quel	ch'el	sem	en	seu	cor,	quel	ch'el	sem
17b	ad	sem	en	funds	croppu.	mo	li	ch'el	mai	par	tempo:	a	car	isat	ad	lig	ch'el	ad	lig	ch'el	ad	lig	ch'el	ad	lig	ch'el	ad	lig	ch'el	ad	lig	ch'el	ad	lig	ch'el	ad
24	un	ad	sumelga	isat	mes	lavort	ad	els,	ad	els	lig	Ragnavel	da	tschel	un	sumelga	ad	un	carstau	ca	isat	ben	sem	en	seu	cor,	quel	ch'el	sem	en	seu	cor,	quel	ch'el	sem	
25	Mo	car	th	isat	isat	isat	isat	isat	isat	isat	isat	isat	isat	isat	isat	isat	isat	isat	isat	isat	isat	isat	isat	isat	isat	isat	isat	isat	isat	isat	isat	isat	isat	isat		
31	un	ad	sumelga	isat	mes	lavort	ad	els,	ad	els	lig	Ragnavel	da	tschel	un	sumelga	ad	un	carstau	ca	isat	ben	sem	en	seu	cor,	quel	ch'el	sem	en	seu	cor,	quel	ch'el	sem	
33	un	ad	sumelga	isat	mes	lavort	ad	els,	ad	els	lig	Ragnavel	da	tschel	un	sumelga	ad	un	carstau	ca	isat	ben	sem	en	seu	cor,	quel	ch'el	sem	en	seu	cor,	quel	ch'el	sem	
34	Tut	quels	causas	ha	Jesus	th	tras	sumelga	ancuter	lig	pievel	:	a	senza	sumelga	ad	lig	qual	anna	ter	els															
35	Par	ch'el	angit	cuplino	enten	ch'el	gig	tras	lig	Prophet	Jou	der	ma	bucca	enten	sumelga:																				
36	Lura	isat	Jesus	ir	lig	pievel,	a	vays	a	cas	a	als	juvals	magich	th	tiers	el																			
37	Ad	el	th	raporta,	isat	ad	els,	Quel	ca	isat	ad	lig	isat	ad	lig	isat	ad	lig	isat	ad	lig	isat	ad	lig	isat	ad	lig	isat	ad	lig	isat	ad	lig	isat	ad	
38	Ad	lig	th	Mund	ad	lig	bien	sem,																												
39	Ad	lig	anang	ch'el	th	isat	sem	ad	lig	isat	ad	lig	isat	ad	lig	isat	ad	lig	isat	ad	lig	isat	ad	lig	isat	ad	lig	isat	ad	lig	isat	ad	lig	isat	ad	
40	Cuntut	so	lig	zerdim	an	rapud	isat	ad	anantau	ca	ad	lig	isat	ad	lig	isat	ad	lig	isat	ad	lig	isat	ad	lig	isat	ad	lig	isat	ad	lig	isat	ad	lig	isat	ad	
41	lig	th	lig	carstau	isat	a	tarmeter	els	Aungels,	ad	els	isat	ad	lig	isat	ad	lig	isat	ad	lig	isat	ad	lig	isat	ad	lig	isat	ad	lig	isat	ad	lig	isat	ad	lig	
42	Ad	isat	isat	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th		
43	Lura	isat	isat	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th		
44	Puchon	th	lig	Ragnavel	da	tschel	sumelga	ad	un	marcadon,	ch'el	ad	isat	ad	lig	isat	ad	lig	isat	ad	lig	isat	ad	lig	isat	ad	lig	isat	ad	lig	isat	ad	lig	isat	ad	
45	Puchon	th	lig	Ragnavel	da	tschel	sumelga	ad	un	marcadon,	ch'el	ad	isat	ad	lig	isat	ad	lig	isat	ad	lig	isat	ad	lig	isat	ad	lig	isat	ad	lig	isat	ad	lig	isat	ad	
46	A	car	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th		
47	Puchon	th	lig	Ragnavel	da	tschel	sumelga	ad	un	marcadon,	ch'el	ad	isat	ad	lig	isat	ad	lig	isat	ad	lig	isat	ad	lig	isat	ad	lig	isat	ad	lig	isat	ad	lig	isat	ad	lig
48	A	car	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th	th																							

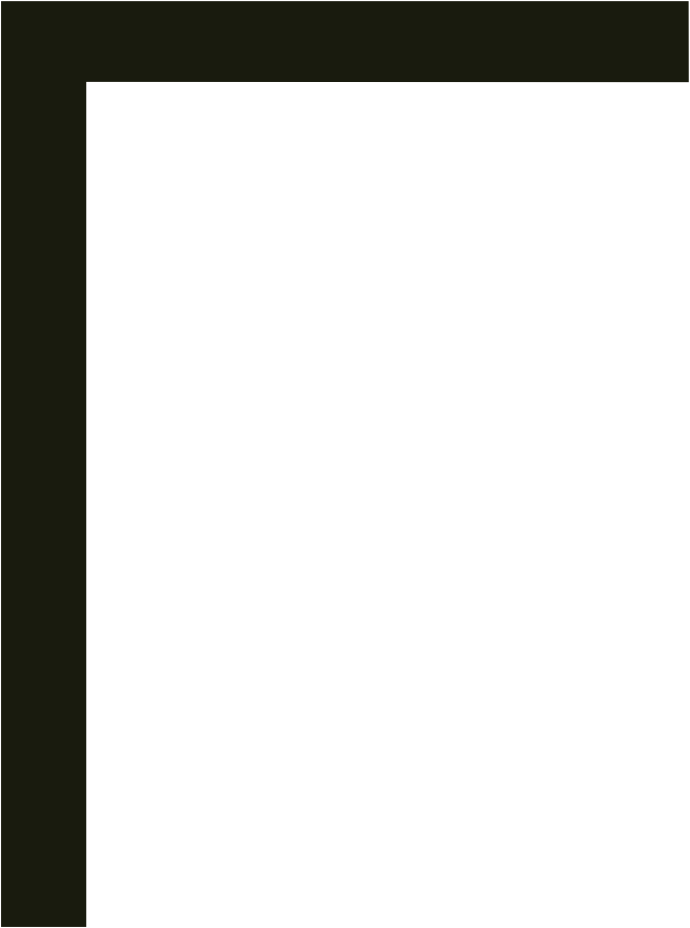
分析

■ 13章の流れ

- 10～23節 - たとえを用いて話す理由 + 「種を蒔く人」のたとえの群衆への説明：
群衆への語り（直説法現在）
- 24節 - (16a) : **例え話への移行**（直説法完了）
- 25～30節 - 「毒麦」のたとえ：イエスの例え話（直説法物語過去）
- 31節 - (16b) : **例え話への移行**（直説法物語過去）
- 32～33節 - 「からし種」と「パン種」のたとえ：イエスの例え話（直説法物語過去）

(17a) 直説法完了：群衆の現在 → イエスの例え話

(17b) 直説法物語過去：イエスの例え話 → イエスの例え話



まとめ



まとめ

- リサーチクエスション（再掲）

「直説法完了と直説法物語過去という2つの過去時制が、まったく同じように使用されていたのか。もし用法が異なる場合、どの様に使い分けられていたのか。」を17世紀に書かれたスルシルヴァンの初期の文献, Gabriel, L. (1648)を用いて明らかにする。

まとめ

- リサーチクエスション（再掲）

「直説法完了と直説法物語過去という2つの過去時制が、まったく同じように使用されていたのか。もし用法が異なる場合、どの様に使い分けられていたのか。」を17世紀に書かれたスルシルヴァンの初期の文献, Gabriel, L. (1648)を用いて明らかにする。

直説法物語過去と、直説法完了は無作為に使用されているわけではなく、使い分けられていた。

まとめ

■ リサーチクエスチョン（再掲）

「直説法完了と直説法物語過去という2つの過去時制が、まったく同じように使用されていたのか。もし用法が異なる場合、**どの様に使い分けられていたのか。**」を17世紀に書かれたスルシルヴァンの初期の文献，Gabriel, L. (1648)を用いて明らかにする。

主な特徴	直説法完了	直説法物語過去
人称	全人称	3人称（1例を除く）
使用場面	登場人物の発話 登場人物に関する説明	語り手（地の文） 登場人物による例え話 など
説明の時制 or 語りの時制	説明の時制	語りの時制

まとめ

■ 制約及び今後の課題

- Gabriel, L. (1648)の一部における使用しか分析していない
- 翻訳作品であるため、時制に関してはギリシャ語などからの影響も否めない
 - 翻訳作品以外も、他の古スルシルヴァンの作品を横断的に分析する必要がある
- 『語りの時制』では説明が困難な、1人称での直説法物語過去の使用に関して
 - 直説法未完了や、直説法大過去が使用される文脈を含んだ分析を行う必要がある

参考文献

ASCOLI, G. J. (1873). “Saggi Ladini”, *Archivio Glottologico Italiano*, v. I, Turin

CADONAU, P. P. (1948). « Luzi Gabriels Übersetzung des Neuen Testaments », *Bündner Jahrbuch : Zeitschrift für Kunst, Kultur und Geschichte Graubündens*, Bd. 4, pp. 85-92.

CAHANNES, G. (1924). *Grammatica romontscha per Surselva e Sutselva*, Liga Romontscha.

—— (1927). *Entruidament davart nossa ortografia*, Liga Romontscha

CARISCH, O. (1855). « Die Gabriel'sche romanische Uebersetzung des Neuen Testamentes », *Bündnerisches Monatsblatt: Zeitschrift für Büundnerische Geschichte, Landes- und Volkskunde*, Bd.6, Heft 3, pp.36-45.

CAVIEZEL, E. (1993). *Geschichte von Verschriftung, Normierung und Standardisierung des Surselvischen*, Societad Retorumantscha : Coira.

CONRADI, M. (1820). *Praktische deutsch-romanische Grammatik*, Zürich.

GABRIEL, L. (1648). *Ilg Nief Testament da niess Senger Jesu Christ, mess giu en Rumonsch da la ligia Grischa : tras Luci Gagriel, survient d'ilg plaid da Deus a Lgiont*, Joan Jacob Genath : Basel.

GARTNER, T. (1883). *Rätoromanische Grammatik*, Heilbronn.

GROSS, M. (ed.) (2004), *Romanche Facts & Figures*, traduit de l'allemand par Furer, J.-J., Coire.

参考文献

MOURIN, L. (1964). « Sursilvain et engadinois anciens et ladin dolomitique ». in : Guy De Poerck/Louis Mourin, *Introduction à la morphologie compare des languesromanes basée sur des traductions anciennes des Actes des Apôtres ch XX à XXIV, Tome IV.*

Procurada per incarica dil Decanat Sursilvan e dil Colloqui Sur Igl Uaul (ed.) (1988). *Niev Testament*, Stampa Romontscha Condrau S.A.: Mustér.

Stiftung Historisches Lexikon der Schweiz (ed.) (2010-2012). *Lexicon Istoic Retic (LIR)*, v.1-2, Chasa editura Desertina: Cuira.

SPESSCHA, A. (1989). *Grammatica Sursilvana*, Cuera.

WEINRICH, H. (1985). *Tempus : besprochene und erzählte Welt* (4. Aufl), W. Kohlhammer.

ヴァインリヒ, ハラルト (1982). 『時制論：文学テキストの分析』 (脇坂豊・大瀧敏夫・竹島俊之・原野昇訳) 紀伊国屋書店.